

かちがらす



SAGA UNIVERSITY Magazine

佐賀大学広報誌

No.51

2024

一人でも多くの医師を佐賀県に残したい

医学部臨床実習コーディネーター

学生生活から就職までをトータルサポート

ウェルビーイング創造センター



佐賀大学の新しい教育支援

- 社会で輝く先輩からのメッセージ
- 第3期エスタブリッシュド・フェロー
宮武正登 / 山口夕妃子 / 早川智津子 / 木村晋也
中山功一 / 阪本雄一郎 / 郭其新 / 德田誠
- イキイキ佐大生 / TSUDOIBA
- お知らせ



読者プレゼント

佐賀大学の 新しい教育支援



本学では、全ての学生が存分に学んで未来へ挑戦できるよう
教育支援をアップデートしています。

昨年は医学部の「臨床実習コーディネーター」
今年は「ウェルビーイング創造センター」がスタートしました。
その取り組みについてご紹介します。

医学部臨床実習 コーディネーター

2023年4月、医学部に「臨床実習コーディネーター」チームが設置されて、5名の医師教員が所属しています。チームが立ち上がった経緯や活動内容などについて、山下駿特任准教授に聞きました。



臨床実習コーディネーターの山下先生（写真右）は医学部附属病院総合診療部と兼任。今でも週1日は現場にて、学生の指導にあたっている

佐賀県に残る若手医師を増やす 地域の医療を守るために始動

昨年4月、医学部に「臨床実習コーディネーター」チームが新たに誕生しました。「佐賀県では若手医師の数が減少傾向にあります。地域の医療を守り続けるためには、佐賀県に残る若手医師を増やすことが必要不可欠です。臨床実習中の医学生への教育の質を向上させることで、医学生に佐賀県にいれば自分が成長してキャリアアップできると感じてもらうことと、地域医療に従事するための資質や能力を養うこと』を目的として、臨床実習コーディネーターのチームを設置しました」と地域医療科学教育研究センター特任准教授で、総合診療科の医師でもある山下先生は設立の背景を説明します。

設置の前年、立ち上げ担当として白羽の矢が立つた山下先生は、医学部附属病院と各診療科の協力を得ながら、子育て中の女性医師4名とチームを結成。実態を調査した上で課題を明確にし、前例のないチャレンジを進めてきました。大きな改善としては、学生の臨床実習において、それまでは29の診療科

ごとに実習内容を決めていましたが、「一貫したトレーニングが有効である」と判断。文部科学省が示す、臨床実習中に経験すべき症候・発熱やけいれんなど³⁷と医行為（一次救命処置・手術助手など⁷²）について、全診療科に何の項目を教えられるかアンケートを取り、その結果をもとに各科に割り振りを行いました。そして、学生が実際に経験できているかどうかについても、随時学生にアンケートを取り、全員が全ての症例や医行為を経験できるように調整しています。

「多忙な各診療科にもメリットになることをしようと心がけています。各科からは、割り振りを行ったことで、自分たちが教えるべき内容が明確になつたと好意的に受け止めてもらっています。また、全診療科に進捗データや学生からの満足度調査の結果を共有することで、やりがいや自信につながつているようです。医師から、学生の指導方法などについてもご相談いただき、一緒に考えています」と話します。

学生の声を現場や上層部に伝え さまざまな改善策を実行

「私たちのチームでは、学生の視点に立つて考えて、学生の声をできるだけ拾うことも重視しています。アンケートを取りますが、やはり直接話を聞くことが第一」と山下先生。ふだんから学生とコミュニケーションを取る他、学生5~10名を月1回集めて、本学や医学部だけでなく佐賀県についても、改善してほしい点や、どう変わったらいいかなど、徹底的に本音で話してもらう場も設けてきました。

ことになるため、研修医のうちから当直を経験したいというニーズがあると気づきました」。その声を執行部に伝えた結果、当直ではないが、患者さんが来たら深夜でも呼ばれるオンライン勤務を学生もできるように仕組みを変えました。

「学生の声がコーディネーターを通じて執行部や担当部署に届き、直ちに改善策が実行されるようになります。学生が自分たちの力で大学や職場を変えていくと実感し、協力者が増えていくことを期待しています」



臨床実習コーディネーターの皆さん。左から井手則子先生、八板静香先生、山下先生、井上香先生。他に溝口ゆかり先生がいて、メンバー全員が子育て中

その声を診療科に伝えて改善を図つたり、病院全体の環境を変えたりしたケースもあります。例えば、セキュリティの問題から、院内には学生が使えるWi-Fiがありませんでした。しかし、学生から毎日患者さんのカルテを書くとき、調べながら書きたいという声が出てきました。

深掘りすると「Wi-Fiがつながれば学習環境が改善する」と考える学生が9割にのぼったため、山下先生らは関係部署と協力して、学生がWi-Fiを使うようにしてもらいました。

また、佐賀大学医学部附属病院では研修医に当直をさせることがなかつたのですが、研修病院を選ぶ際、学生の3割は「当直ができる」とを重視しているとわかりました。「2年間の研修医が終わると、翌年からひとりで当直をする

佐賀大は教育が充実していると 学生や社会に認められたい

臨床実習コーディネーターを設置して2年目ながら、「臨床実習が良くなつた、卒業後に佐賀に残つてもいいと思うようになった」という声が多く届いていて、非常にありがたく思っています」と山下先生。これから挑戦したいのは、卒業直後に即戦力となれるように、院内の臨床実習の質を上げて学生の理解度や習熟度を高めること。同時に、学生にとつて将来をイメージしやすい地域医療実習の期間を長くして、地域医療に従事する資質を養い、やりがいを理解していく

もらえるようにより改善していきたいとのこと。「これからも教育側と学生の橋渡し役として教育の質を上げて、佐賀大医学部は教育が充実していると社会的に認められるような存在にしたい。そして学生に佐賀県や

佐賀大を好きになつてもらい、この地域に残ることで地域の医療が守られるように力を尽くします」

臨床実習コーディネーターのインスタグラム



臨床実習コーディネーターの 先生方のおかげで 実習の学びがより充実

実習先の先生は多忙な医師でもあり、気軽に本音を話せる機会はなかなかありません。そんな中、臨床実習コーディネーターの先生が「今はどんな感じ?」「困っていることはない?」といつも聞いてくださって、何でも話しやすい雰囲気です。相談したことを実習先の先生と調整もしてくださるので、より良い実習内容や環境になつていく実感があります。先輩から苦労話を聞くこともあります。たが、今は「コーディネーターの先生がいるおかげか困ることはありますせん。とても心強く、ありがたい存在です。



福岡出身で6年生の出口元さん



ウェルビーイング 創造センター

今年4月、佐賀大学に「ウェルビーイング創造センター」が設立されました。「ウェルビーイング」の概念や設立の背景、活動について、センター長の倉岡晃夫教授にお話を聞きました。

学生の“ウェルビーイング”に向け 支援の連携を図っていく

これまで本学には学生の悩みに応じる「学生支援室」、就職活動をサポートする「キャリアセンター」、社会人の学び直しに対応する「生涯学習センター」が個別にありました。実際には、何らかの障がいや特性を持つ学生が学びだけでなく就職にも困っている、理工系女子学生が結婚・出産などのライフデザインを描く上で就職先に悩んでいるというように、悩みは複合的です。そのため「学生生活から就職まで連続して支援する必要性を感じていた」と倉岡先生は話します。

そこで「大学在籍中から卒業後の将来を含めてその学生にとつての幸福とは何かと一緒に考え支

解剖学の教員として教壇に立つ倉岡先生は、数年前から学生の変化を感じるのだと。成績はいいのに授業に適応できずにいたり、勉強方法に悩んでいたり。そこでそのような悩みを抱えている学生の話を聞いて変化の原因を突き止め、クラス全体に処方箋を示す取組みを独自に行なってきました。学生の表情に明るさが戻っていく様子を知る倉岡先生は、こういった取組みを学修支援部門を中心に関学に広げていきたいといいます。

「せっかく入学したのに、悩みや苦しみが多くて幸せな学生生活やその後の人生を幸せに送るチャンスを得られないのは、もったいないこと」と話す倉岡先生。「ウェルビーリングの概念を学生含め本学に関係する皆さんに理解してもらいたい、学びや出会いを通して社会を生きるコツや幸福を感じるヒントを得てもらいたい。そして将来、本学に入つてよかつたと思つてもらいたい」といいます。

取り組みは始まつたばかりです。「在学生が今何を考えているのか、卒業生は今どういう状況にあるのか教えてほしい」と先生。そのため「大学のアンケートには必ず回答してほしい」とも。「その回答は必ず次の世代のウエルビーイングに活かされます」。その言葉に学生の幸福を願う気持ちが込められていました。

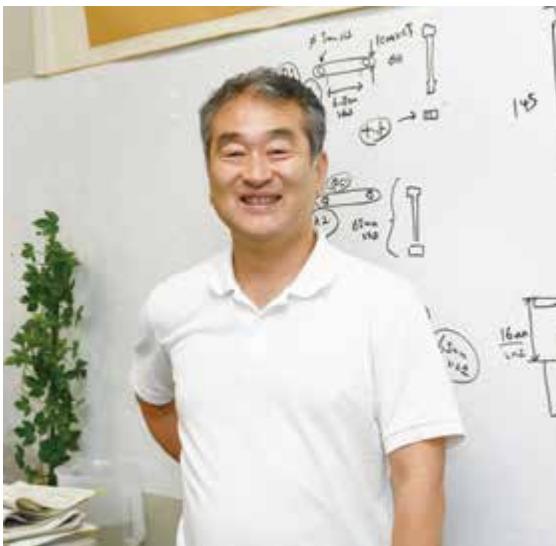
ウェルビーイングとは？



目の前の幸福に限らず、生きがいや人生の意義なども含め、身体的・精神的・社会的に、将来にわたって幸せな状態が続くことをいう。

学ぶスキルを身につけ

自分でより良い人生に
喜びを知つて



農学部教授・農学博士の田中宗浩先生。今年4月学修支援部門長に就任し、中島俊思准教授らと共に学生の支援を行う

学修支援部門

年間延べ5000人を支援
他部門と連携さらに拡充も

学修支援部門は、悩みのある学生をサポートする
従来の「学生支援室」と「学び方の修得支援」を大きな柱とします。

これまでの「学生支援室」はソーシャルワーカー、
や保健管理センター、チーフターの教員と欠席の統
く学生や、障がい特性のある学生などの支援を行
い、

コロナ禍で個々に就職活動をする学生が増えて
職員の持つ情報が学生に届きにくくなっているた
め、「ウェルビーデザイン創造センターの設立によ
て各部門と連携を図るのは大きなメリット」だと
学習障がいでエントリーシートを書けずいる学
生に支援が届かず、就職がうまくいかなかつた
ケースも。しかし今後は学修支援部門と連携して
相性の良い企業を探すといったサポートができる
ようになります。

また、地元企業が求める知識や技術をリカレン

特性のある学生や リケジョの就職を きめ細かくサポート

学生のライフデザインに寄り添い
先の人生を考えて就職を支援

キャリア支援部門

「キャリア支援部門」は週に一度の就職ガイダンスや専門員による就職相談などを実施。担当教員と職員は年間延べ1000社以上と面談して就職情報を発信しています。それらの取組みが奏功し、本学の就職率は99.8%と九州内の国立総合大学の中でトップを誇ります(※)。それでも学生と企業のミスマッチが起こることもあり、また地元企業への就職率は高いといえません。

コロナ禍で個々に就職活動をする学生が増えて職員の持つ情報が学生に届きにくくなっているため、「ウェルビーデザイン創造センターの設立によて各部門と連携を図るのは大きなメリット」だと部門長の大渡啓介先生は話します。これまで

社会人も集いやすく 学びを実感できる

「知の拠点」へ

大学院や他大学とも連動し
高等教育から佐賀を活性化

リカレント教育部門

リカレント教育とは、社会人が必要なタイミングで教育機関や社会人向け講座で学び直すことです。本学でも地元企業や市民の方のニーズに応えるため、正規授業の一部を公開講座として開放しています。令和6年度の後期は50授業ほどあり、リカレント教育部門長で経済学部教授の角田幸太



「吉野ヶ里遺跡のある三田川出身です。プロサッカーのインセントタイプ研究など専門を活かし佐賀に尽力したい」と角田先生

昨年度は延べ5000人以上の学生をケアしました。ウェルビーイング創造センターと名称は変わつても支援の仕方は変わらず、「各部門が学生の悩みを共有することでよりきめ細かな支援ができる、それをさらに拡充できる」と先生は期待を寄せます。

大学での講義、調査、実験などへ参加し、情報収集して内容を読み解き、批判的・論理的に考え、お互いに考え方をアウトプットして議論する力などをアカデミック・スキルズといいます。このスキル不足が学生の学びに対する不安や悩みの原因になり、キャリア形成にも影響するかもしれません。そこで「これらの能力を醸成するための本学独自のプログラムを1~2年次に用意し、学ぶ楽しさを味わってもらいたい」と先生はいいます。

「知識や技術を得て知らなかつた世界を知る、わからなかつたものが腑に落ちてわかることは、学びの根源にある喜びであり、何ものにも代えがたい満足感です」と話す先生。スクリルの会得によつて学生本来の喜び・楽しみを知る。より良い人生を送るために自ら学んでいき、自分で自分のキャリアを選択していく。そんなウェルビーイングに向かった学修支援は、教育支援の新しいあり方として注目されます。



プライバシーに配慮したCSルーム(相談室)

学修支援部門の
ウェブサイト



部門長の大渡啓介先生(後列左)、専任の山内一祥先生(後列左から2人目)とキャリア支援部門職員の皆さん

ト教育部門でカバーできるうえ、その情報を共有して履修プログラムに取り入れて在学時から身につけることも可能です。さらに理工系女子学生(リケジョ)は、技術開発研究職への就職が少ないという課題がありました。今後はウェルビーイングの観点から「妊娠出産といった女性のライフイベントに対する理解を男女ともに深めていきたい」と話し、職場見学や女性技術者と交流できる機会を設けていく考えです。

自分の人生をどうしていきたいのか。自分はどうありたいのか。「それを考えてもらうことがこれからのかのキャリア支援」だといい、創造センターの設立は就職活動の支援にも広がりを見せて います。

※鹿児島大学の調査

キャリア支援部門の
ウェブサイト



郎先生も「会計学」(教養1年次対象)、「管理会計論」(経営2年次対象)を受け持ちます。今回の新体制に、角田先生は「社会人学生の方にも学びが身に付いたことを実感し、意欲を高めてもらうため、学修を振り返るライフポートフォリオの導入を進めています。また多くの企業の方と関わることから、キャリア支援部門との連携も検討しています」。さらに先行している他大学の状況もリサーチし、今後に活かしていくといいます。社会人の学び直しについて、「リカレント教育を求める人には大卒者も多く、大学院レベルの対応も必要」と角田先生。また今後の拡充のため、まずは学内の教職員に週1コマほど参加を呼びかけたいといいます。そこで得られた意見をもとに最適化を進める予定です。

今年、佐賀の6つの大学・短期大学による「大学コンソーシアム佐賀」がポータルサイト『サガレッジ』とアソシエート『サガレッジ』として開設され、6月に佐賀市公式スマートフォンアプリと連携しました。「6大学の授業開放を掲載しています。ぜひご覧ください」

リカレント教育部門のウェブサイト



『サガレッジ』<https://www.sagallege.jp>

社会で輝く 先輩からの メッセージ

2023年度の卒業生・修了生の

就職率は

99.7% (2024年5月1日現在)

と近年高い水準を維持しています。

いま社会で活躍している本学のOB・OGから

就職を目指す在学生へのメッセージを紹介します。



佐賀大学公式
マスコットキャラクター

名前	カッチャーくん
性別	オス
誕生日	2月29日
年齢	ひみつ
すきなもの	いちご
苦手なもの	グリンピース、うめぼし
性格	心優しく、天然系。 でも好奇心は、鳥一倍

「自分自身を把握し、思つたことを
分かりやすく伝える能力を磨こう」



正直なところ遅刻の多い、今を樂しみたい学生でした。土木関係の仕事をしていた父の影響もあり、志望は技術系公務員。ただ、何がしたいというビジョンを持っていたわけではありません。佐賀大でもっと学びや経験を積んでおけばよかつたと思うことはあります。現地測量から計画に至るまでの製図、積算に必要な数量算出など、必要なスキルを磨いておけばよかつたと入庁後痛感しました。人に説明する機会が多いので、プレゼン能力もあるに越したことはないです。どんな業務も実際に学生が想像しているものと乖離があると思うので、希望する分野のインターンシップには積極的に参加

するのを薦めます。とはいって、結果、社会人になつて培うことの方が多いので、やる気さえあれば何だつてできると思います。

現在は唐津市役所都市整備部道路維持課で、市道、河川の維持管理、整備、災害復旧に係る測量・設計、積算、施工管理を行っています。近年の大雨災害や老朽化したインフラの維持管理に直面するなか、唐津市も技術系公務員の人員不足が深刻です。今後は若手職員の能力を引き上げ、業務へ邁進できる人材を育てていきたい。やりがいを感じられる仕事なので、興味がある方は是非とも就職先のひとつにご検討ください。



面白がる心を忘れないで



「目の前のことを見たまに楽しむ

今という時間を大切にして



「目の前のことを見たまに楽しむ

今という時間を大切にして

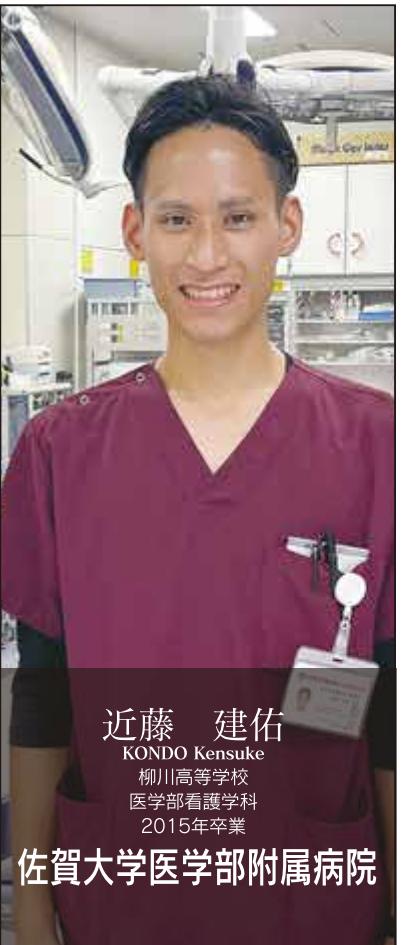
卒業後は福岡の実家の家業を継いで陶芸の道に入るため、京都府立陶工高等技術専門校へ。そこで夫と出会い、8年前に互いの地元の窯業技術を融合したブランドを設立しました。新商品開発や営業もし、工房兼ギャラリーでは制作しながら接客も。拠点が福岡でな

く京都になるとは、人生どうなるか分からぬものです。

実家の福岡・小石原焼として14代、夫の京都・清水焼として4代、それぞれ続いた伝統や想いを融合して作り上げた私たちの世界観や技術を、子供たちへ渡す時により良い形で繋いでいけるよう、柔軟に楽しみながら取り組んでいきたいと思っています。京都は海外のお客さまも多く、作品や技術、気持ちも英語で説明できるよう47歳から英会話を始めました(笑)。私たちが作る“もの”的先には必ず人がいます。目の前のものだけではなく、その先の人たちをいつも想像しながら制作する心がけています。

初めての一人暮らし、新しい交友関係に毎日が楽しかったです。美術科は先輩後輩の仲がとても良く、たくさんのことを見て人生の糧となりました。

今多くの方と繋がっています。夏休みには北海道の牧場で働くなど様々なアルバイトも経験。今思えば他学部の人と知り合えるサークルにも入つてみたかったです。



母が看護師をしており、小さな頃から職業として身近に感じていました。高校生の時に母が真摯に働く姿を見たことがあります。その時、自分も看護師になりたいと思いました。看護学科は男子学生が少ないぶん男子同士の仲間意識があつて、楽しい学生生活でした。部活動でバスケットボール部にも所属し、先輩・後輩と交流の輪が広がりました。実習では、病気を持つ患者さんとの関りに悩むこともあります。どのようない方をすれば患者さんの治療がうまくいくのか、よく考えていたことを今も思い出します。

救命救急センターのECUに入職。今年で10年目になります。現在は病棟業務・救急外来・プレホスピタル(ドクターカー・ドクター・ヘリ)の業務を担っています。超急性期の患者さんの看護や診療の補助を日々行っており、時には自分の未熟さに悔しさを感じることもありますが、貴重な体験をしながら働くことができています。

今後はプレホスピタルスタッフとして、より良い活動ができるよう技術・経験を積むことを目標としています。次のステップアップに向け、救命救急センターでも活動されている特定行為研修など、視野を広げて頑張っています。

3年の実習で救急領域に興味が湧き、佐賀大学医学部附属病院の高度

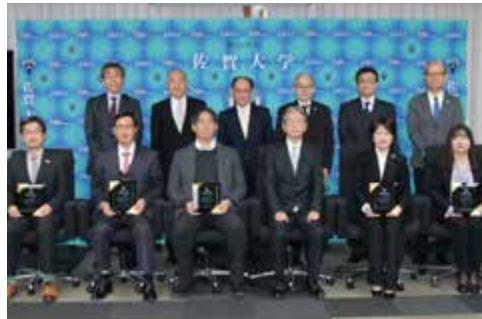
国内外をリードする 本学研究者を称える

第3期佐賀大学 エスタブリッシュド・フェローを 8名の研究者に授与

エスタブリッシュド・フェロー (Established Fellow) : 卓越研究者



受賞者に贈られる盾



エスタブリッシュド・フェロー授与式の様子

佐賀大学では、それぞれの専門分野で先駆的・先導的な役割を担う教授職に対し、「エスタブリッシュド・フェロー」(卓越研究者)の称号を授与しています。基礎的な研究から独自性のあるものまで、全ての分野の研究活動を推進、発展させるため研究者の研究業績や功績を可視化するものです。2017年(平成29年)にスタートし、これまで17名の教授が表彰されています。

評価項目には科研費(※)をはじめとする外部資金の獲得状況、博士課程学生(大学院生)への研究指導、各種研究成果に関する賞の受賞、著書・論文数、共同研究の実績、特許出願件数、研究リーダーとしての実績など

があります。評価対象期間は授与前までの6年間。学内の総合研究戦略会議のもと選考委員会が設置され、候補者が選ばれます。さらに学長、理事による役員会で決定します。

第3期のエスタブリッシュド・フェローには8名が選出され(下部参照)、3月に称号授与式が行われました。今回初めて文系から3名が選ばれ、うち2名は女性研究者です。選考理由、受賞者のコメントは11ページからご覧ください。

本学の研究者による研究成果は、社会が抱える様々な課題の解決につながるとともに、本学の社会的責任を果たす上でも大きく貢献しています。この制度をきっかけに、学内外の多くの方に、本学の研究者と研究活動を知つていただければ幸いです。

※科研費(科学研究費助成事業は、人文・社会科学から自然科学まで、全ての学術研究の発展を目的とした文部科学省の助成事業。日本の研究基盤を支えています。

第3期 佐賀大学エスタブリッシュド・フェロー (令和5~7年度)

評価対象期間：平成29(2017)～令和4(2022)年度の6年間

宮武 正登(みやたけ まさと)
全学教育機構 教授

山口 夕妃子(やまぐち ゆきこ)
芸術地域デザイン学部 教授

早川 智津子(はやかわ ちづこ)
経済学部 教授

木村 晋也(きむら しんや)
医学部 教授

中山 功一(なかやま こういち)
医学部 教授

阪本 雄一郎(さかもと ゆういちろう)
医学部 教授

郭 其新(くお ちーしん)
シンクロトロン光応用研究センター 教授

徳田 誠(とくだ まこと)
農学部 教授

第3期 エスタブリッシュド・フェロー



上)左から兒玉学長、木村教授、研究担当の豊田理事。右)受賞者に用意される特製名刺



九州・沖縄に多い血液のがん「成人T細胞白血病」などの新薬開発を続ける医学部の木村晋也教授が、今回3期連続受賞となりました。

「佐賀県と佐賀大学に少し恩返しができたように感じています。佐賀新聞に3期連続受賞の記事が載り、患者さんに喜ばれました。主治医がこのような賞をもらうと『名医』に診てもらっていると思われるようです。研究と臨床の腕前は必ずしもリンクしませんが(笑)。医学の研究には莫大な資金がかかります。物価高と円安の影響で、地方の医学部で研究を続けるのは難しい状況ですが、他学部や企業との連携も図り、発展させていきます」

木村教授が3期連続受賞

第1期 (平成29~令和元年度)

評価対象期間：平成23(2011)～28(2016) 年度の6年間

木村 晋也(きむら しんや)

医学部 教授

外部資金の獲得が著しく、科研費獲得の実績を有するとともに、博士後期課程の学生指導においても大きく貢献。また「ABL阻害剤の中止」に関する研究成果は社会的に注目され、日本経済新聞、読売新聞など多数のメディアで紹介されました。

田中 徹(たなか とおる)

工学系研究科 教授

科研費獲得とともに外部資金の獲得も著しく、工学系の若手研究者として活躍が顕著。また「次世代の超高効率・低コスト太陽電池の開発」で得られた ZnTeO 中間バンド太陽電池について、その実現可能性を明確に示した研究成果で国際的に高く評価されました。

三島 伸雄(みしま のぶお)

工学系研究科 教授

科研費を複数獲得し、研究成果を多くの論文で発表。また「歴史的地方都市における災害時要援護者を視野においた避難ルート計画に関する一連の研究」は防災分野で国際的に高く評価され、日本学術振興会の二国間共同研究に発展しました。

鈴木 章弘(すずき あきひろ)

農学部 教授

科研費の獲得に意欲的に取り組み、際立った実績が注目されました。また「マメ科植物の根粒形成に及ぼす光質の影響に関する研究」を国際的に先導し、その成果は国内に留まらず国際的に高く評価される論文となりました。

早川 洋一(はやかわ よういち)

農学部 教授

本学における科研費の獲得実績が突出。ほ乳類の免疫系タンパク質・ITAM モチーフ構造を昆虫のサイトカイン受容体アダプターで発見。基礎医学分野における生理的機能解析と ITAM モチーフの進化・比較研究に多大な寄与があり、国際的な研究成果となりました。

永田 修一(ながた しゅういち)

海洋エネルギー研究センター 教授

(現・海洋エネルギー研究所)

「空気タービンを用いる振動水中型波力発電装置の開発」では世界最高効率の空気タービンを用いた波力発電装置として高く評価。「渦法に基づく粘性流体解析法」開発論文は、日本船舶海洋工学会賞(論文賞)、日本造船工業会賞、日本海事協会賞を受賞。

第2期 (令和2~4年度)

評価対象期間：平成26(2014)～令和元(2019) 年度の6年間

出原 賢治(いずはら けんじ)

医学部 教授

アレルギー疾患の発症機序に関する研究を行い、企業と連携してその基礎的知見を臨床的実用化につなげました。SCCA2 測定システムを小児アトピー性皮膚炎の対外診断薬とすることに成功し、保険に適用されています。

木村 晋也(きむら しんや)

医学部 教授

臨床研究において世界初の第二世代 ABL 阻害剤の中止試験を行うとともに、基礎研究においても研究成果を多数の学術雑誌に報告。これらの研究の業績により、日本がん分子標的治療学会学術賞「鶴尾隆賞」を受賞しました。

野出 孝一(ので こういち)

医学部 教授

心血管不全・時計遺伝子等の基礎研究や多くの多施設介入試験の研究代表者として循環器研究に取り組んでいます。外部資金の獲得も著しく、科学研究費補助金や受託研究・共同研究などの実績があり、多くの論文を発表しています。

嘉数 誠(かすう まこと)

理工学部 教授

環境、エネルギー社会に期待されるダイヤモンド半導体の先駆的な研究を行い、本学において世界的に傑出した数々の成果を上げました。科学研究費補助金基盤研究の獲得、多数のNEDO プロジェクト採択など外部資金獲得にも意欲的です。

宮良 明男(みやら あきお)

理工学部 教授

機械工学における熱工学を基礎に、冷凍・空調の分野で地中温化の抑制に貢献する研究を行っています。国際的な条約に基づいて削減される既存冷媒に代わる新規冷媒の実用化への熱物性計測に関し、世界に先駆け粘度や熱伝導率データを公開。

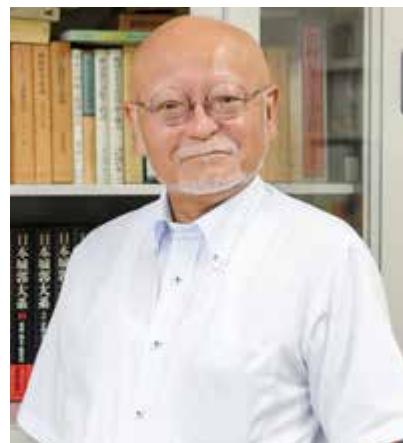
佐賀を拠点に日本の城郭史を研究、 文化財保護など社会へ還元

全学教育機構 教授

宮武 正登

MIYATAKE Masato

研究分野：日本中世史、城郭史、歴史考古学、水中考古学



選考理由

人文系教授の研究活動にも、さらには注目いただけたら幸いです。佐賀を含む西九州地域は、日本史上のさまざまな事件の舞台となつた稀有な場所です。豊臣秀吉と全国諸侯が参陣した名護屋城跡など、その地に立つて歴史の息吹を感じ、学びを深めてほしいと思います。現在、日本の城跡は保護すべき文化財ながら石垣などは危機的状況にあります。しかし大学に在籍する研究者は全国でわずか数名。後進育成が急務です。城の研究をしたい方はぜひ連絡をください。

mmiya@cc.saga-u.ac.jp

020年刊行の単著『肥前名護屋城の研究——中近世移行期の築城技法』をはじめ、多くの学術論文・著書を発表。また、水中考古学分野でも、海外との窓口だった九州・沖縄地方特有の海底歴史遺産の現地調査に長く携わっています。さらに、全国自治体の文化財保護に係る有識者委員を数多く務め、研究成果を積極的に社会へ還元しています。



受賞者より

地域マーケティングで自治体と連携 中心的役割を果たし、学会賞も受賞

芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科 教授

山口 夕妃子 YAMAGUCHI Yukiko

研究分野：マーケティング論



選考理由

受賞を嬉しく思います。1、2期の先生のお名前を拝見するともつと頑張らなくてはという気持ちになります。マーケティングというと企業戦略のイメージがあると思いますが、自治体、学校、病院など非営利組織を主体とするマーケティングもあり、非営利組織から市場へのアプローチも研究が進んでいます。地域というフィールドで、その地域のステークホルダーがどのように関与し、地域住民や来訪者・観光客が満足する仕組みを考え、研究して

日本マーケティング学会のリサーチプロジェクトのリーダーを務め、その研究成果として『地域創生マーケティング』を出版。また「廣告学会九州部会研究助成金」の獲得や「日本マーケティング本大賞」準大賞の受賞など、マーケティング学会での研究活動が極めて顕著です。『合格ようかん』の商品化や武雄市との連携プロジェクトでも中心的な役割を果たしています。



受賞者より



『外国人労働者と法—入管法政策と労働法政策—』が沖永賞を受賞

経済学部 経済法学科 教授

早川 智津子 HAYAKAWA Chizuko

研究分野：労働法



選考理由

2冊目の単著『外国人労働者と法—入管法政策と労働法政策—』が労働問題に関する社会的に有意義かつ優れた図書を表彰する、労働問題リサーチセンター第35回（令和2年度）沖永賞を受賞。また、対象期間中に2冊の共著や英語論文を含む多数の学術論文を発表している他、学会でのワークショップ企画の実績等があり、科研費などの外部資金を継続的に獲得しています。



受賞者より

たいへんありがたく思っています。長く研究できるテーマとの出合いは、研究者にとってのセレンディピティ（幸運な偶然）です。外国人労働政策はニッチですが日本の将来にとって重要な課題の一つと確信しています。お気に入りの言葉にアインシュタインの「初めにそのアイデアが馬鹿げていないなら、そこには希望はない」があります。学生の皆さんには流行に安易に飛びつくのではなく、自分が楽しく将来重要なテーマの追究を薦めます（ただし指導教員とよく相談を・笑）。

新規抗がん剤OP-2100の開発に成功した血液学の第一人者

医学部 医学科 教授

木村 晋也 KIMURA Shinya

研究分野：血液内科学



選考理由

県外患者も来院する血液学の第一人者。研究代表者として5件の多施設共同前向き臨床試験を実施し、主な成果は欧米の治療ガイドラインにも引用されています。本学初の共同研究講座を開設し、新規抗がん剤OP-2100の開発にも成功。研究成果は注目度の高い学術誌などで学術論文として出版され、多数の表彰や研究助成を獲得。さらに18名の博士を輩出しています。



受賞者より

素直に嬉しいです。教室の若手の励みにもなります。私は白血病に関する創薬と育薬を並行してやってきました。医学の進歩で、慢性骨髄性白血病はほぼ死なない病気になりました。さらには改善されていました。さらに改善させるためには新規の薬剤が必要（創薬）で、承認された薬剤をうまく使用することも大事です（育薬）。現在3つの新規薬剤の開発中で、大学院生、博士研究員を募集しています。理工学部、農学部の学生さんも一緒に研究しませんか。 shkinu@cc.saga-u.ac.jp

細胞だけで立体的な臓器を作製する バイオ3Dプリンターを開発



医学部 附属再生医学研究センター 教授

中山 功一 NAKAYAMA Koichi

研究分野：整形外科学、臓器再生、医工学

E F 3rd 選考理由

再生医療・組織工学において独創的な“剣山メソッド”を発明し、世界で初めての細胞だけで立体構造体を作製するバイオ3Dプリンターの開発・実用化に成功。本学や京都大学での血管の臨床研究や末梢神経の医師主導治験の他、本技術を用いたさまざまな臓器の再生医療研究が国内外で行われ、多數の学術誌に報告されました。科研費をはじめ多くの外部資金も獲得しています。

受賞者より

この受賞は研究室のメンバーだけでなく、国内外の共同研究者や仲間達との長年の地道な研究の成果のおかげです。今後も新しい再生医療の実用化に励み、さらなる発展を目指します。私たちの手掛けている分野は医学のみならず、ITやAI、画像認識、材料工学など、さまざまな工学分野の知識の集約が重要です。幅広い研究分野に目を向けてアイデアを探し、私たちの専門分野とコラボレーションさせていくことが、新しい研究につながっていくと考えています。

医療機関ネットワーク事業に尽力 コロナ対策で佐賀県県政功労者表彰



医学部 医学科 救急医学講座 教授

阪本 雄一郎 SAKAMOTO Yuichiro

研究分野：救急医学、事故予防、災害緊急時対応

E F 3rd 選考理由

医療機関ネットワーク事業に開始当初から継続的に参画し、事故情報の収集・提供の責任者として尽力。消費者事故に関する消費者への啓発に多大な貢献をしており、2022年には消費者庁の消費者支援功労者表彰内閣総理大臣表彰などを受賞。コロナ対応においては佐賀県の本部長として活躍し、佐賀県県政功労者表彰を受賞。科研費など外部資金を獲得するほか、英語論文も多数発表しています。

受賞者より

立派な賞をいただき身に余る光栄です。医学部救急医学講座では医局の仲間達がさまざまな領域で研究を続けています。例えば、敗血症や外傷で血液が凝固する際の性質の変化について、心肺停止後の特徴をさまざまな視点から解析したものの、重症患者の集中治療の際のせん妄、重症患者の腸内細菌、地域防災に関する研究など。取得した大型の外部資金は、他分野の先生方との連携が基盤であつたため、今後は他学部との連携も強化していくべきと考えています。



シンクロトロン光の応用研究で 世界のトップ2%の科学者に選出

シンクロトロン光応用研究センター 教授

郭 其新 GUO Qixin

研究分野：シンクロトロン光、化合物半導体、ナノ構造、光物性



選考理由

シンクロトロン光とは、真空中で光速に近い速度で直進する電子が、進行方向を変えられた際に発生する「光」のこと。そのシンクロトロン光および化合物半導体の研究分野で、活発な研究活動を行っています。数多の学術論文を公表し、且つ対象期間中5件がトップ10%の引用論文に。またスタンフォード大学とエルゼビア社が発表した世界のトップ2%の科学者にもランクイン。



受賞者より

この栄誉は私一人の力ではなく、研究室の同僚や学生の皆さん、学外の共同研究者や支援者の協力のおかげです。化合物半導体とシンクロトロン光利用分野の研究に一層励み、さらなる発展を目指します。上海から東京、豊橋を経て佐賀へ来て約30年、本学は研究者にとって最適だと思います。研究は未知の領域を探求する冒険であり、自分の研究成果で世界を大きく変える可能性を秘めています。今後も学生の皆さんと共に学び、探求する喜びを共有していくきます。

植物と昆虫の相互作用を研究 多数の論文、研究者養成にも貢献



農学部 生物資源科学科 生物科学コース 教授

徳田 誠 TOKUDA Makoto

研究分野：システム生態学、応用昆虫学、植物－植食者間相互作用



選考理由

システム生態学、応用昆虫学および「植物－植食者間相互作用」に関する研究において、科研費をはじめとする多くの外部資金を獲得するとともに、その研究成果を多数の学術論文として公表しています。多くの博士課程学生の指導も担当し、研究者養成面でも大きく貢献。2023年度の「SAGAむし結び」イベントでは、県内の多くの企業・団体を巻き込んだ企画を行っています。



受賞者より

学生たちが熱心に取り組んできた興味深い研究データをぜひ世に出したいと論文を発表し続け、受賞に至りました。卒業生や在学生たちに感謝しています。生態学は生き物の生きざまや生き物同士の関係を調べる学問で、生物多様性や病害虫防除とも密接に関わります。解明したいことが次々と湧き、100以上の研究が同時進行中で、毎日1時間と決めて論文を書いています。やりたいことを学べるのが大学です。学生の皆さんには研究の苦労も含めて、楽しんでほしいと思います。

誰かの「やりたい」を みんなで叶える場所

TSUDOIBA



左上から時計周りで長命夏帆（芸術地域デザイン学部2年）江口凜（芸術地域デザイン学部2年）野口魁士（理工学部2年）中山珠英（農学部4年）井本彩奈（芸術地域デザイン学部4年）

今回学生広報スタッフがお話を伺ったのは、学生同士の交流の場を作ろうと活動している団体TSUDOIBAの皆さん。芸術地域デザイン学部4年生（令和6年8月取材時点）の井本彩奈さんが代表を務める、メンバー約20人以上で活動する非公認サークルです。



質問に応えるメンバーの皆さん

TSUDOIBAのモットーは「誰かの『やりたい』を叶える」。誰かの『やりたい』を叶える」とや面白そうだと思ったことに積極的に挑戦しているそうです。例えば、お酒を飲んで風味や産地を当てる「利き酒」のように、様々な食材を当てる「利き〇〇」といったユニークな取り組みも行っています。

TSUDOIBAのモットーは「誰かの『やりたい』を叶える」こと。みんなのやつてみたいことや面白そうだと思ったことに積極的に挑戦しているそうです。例えば、お酒を飲んで風味や産地を当てる「利き酒」のように、様々な食材を当てる「利き〇〇」といったユニークな取り組みも行っています。

夏休み期間中に実施される、佐賀大学の教職員のお子さんを遊びや学習で支援するイベント「学童保育」では、学生団体としてTSUDOIBAだけが担当を任せられました。自分たちで五七五の文章と絵を描き、オリジナルのかかるたを作成したり、ひと工夫加えた自己紹介を考えもらったりといった企画を実施して、学内イベントにも大きく貢献されています。

TSUDOIBAの活動

TSUDOIBAの活動は、かくれんぼや鬼ごっこ、缶蹴りなどの童心に帰れる遊びから、自作したモルック（数字の書かれている棒にモルックという棒を投げて50点ピッタリにするゲーム）などの手の込んだ遊びをメンバーで楽しめます。

また、毎月第2木曜日の19時

から、えびすFMで「放課後のつどい」という番組を担当されています。TSUDOIBAの皆さんで放送するこの番組は「企画会議」が「コンセプトの生放送。実際に番組内で活動の企画会議を行っているそうです。「FM++（プラス）」というアプリを使用すれば、スマートフォンで聞くこともできるので、企画会議を覗いてみたい方は是非聞いてみてください。

他にもボランティア活動として、本庄キャンパス周辺のごみ拾いで親睦を深めたり、「松原川de川床プロジェクト」のような地域イベントに参加するなど、活動は多岐にわたります。

学内イベントに貢献



「松原川de川床プロジェクト」に参加するメンバー



「水祭り」での集合写真



様々な企画を考える定例会



ウォーターサバゲーに参加した小学生と

佐賀の夏の風物詩「佐賀城下栄の国まつり」の2日目に、佐賀市白山名店街で一般参加イベント「水祭り」を開催。二陣営に分かれ、頭にポイ(的)を付けて水鉄砲を撃ち合うウォーターサバゲーを中心的に、的当てやさかな遊びなど、『夏』らしい企画を実施しました。最初は「水鉄砲で遊ぶみたい!」という純粋な想いから企画されたそうですが、白山名店街さんから駐車場を借りることができる、一般参加の賑やかなイベントにしようと思ったそです。「夏の楽しい思い出をみんなと作りたい」の合言葉のもと、3年目となる今年は、200人以上の方が参加されました。

夏の思い出作り

コロナ禍で生まれた 団体

団体が立ち上がったのは3年前のこと。コロナ禍全盛で何もやることがなく、「何かを自分で始めて周りを巻き込んでいきた」と考えていた井本さんが、団体設立を決断されました。コロナ禍だからこそ生まれた団体、それがこのTSUDO-IBAでした。しかし当初コロナ禍での団体運営は困難の連続だったそうです。

読者の皆さんへ

「私たちには『誰かのやりたい』をみんなで話し合って実現する団体です。誰かのやりたいことが自分のやりたいことになる。みんなが遊びを通してひとつになれる瞬間が最高なんです!たとえTSUDO-IBAという団体に入らなくとも、自分のやりたいことを我慢しないで、何にでもチャレンジしてほしいと思います。やってみると意外と自分でできるものなのです!」



公式 X



公式 Instagram

全力で楽しみ、みんなでよく笑う団体TSUDO-IBA。笑顔あふれるアットホームな雰囲気に、取材した私達も元気をいただきました。活動に興味のある方や「やりたい」ことに溢れている方は公式SNSにDMを送るか、直接イベントへ参加してみてください。ぜひTSUDO-IBAへ!



左から学生広報スタッフの乗京志帆（経済学部3年）網屋比奈子（経済学部3年）野間千博（芸術地域デザイン学部3年）が取材を担当



新加入の「さがのさき R」
Rはリアルの頭文字

さきどり情報局9月号では、3周年を記念して新たなキャラクター「さがのさきR(アール)」の加入が発表されました!今後はSNSのショートムービーなどから、広報活動を開始します。



初期の頃の「さがのさき」
髪型がショートヘア!

令和3年度から佐賀大学の公式YouTubeチャンネルで開始された「佐賀大学さきどり情報局」。バーチャル佐賀大学生「さがのさき」がパーソナリティとなり、佐賀大学の様々な研究成果や取り組みについて紹介してきました。そしてこの度、めでたく3周年を迎えることができました!

新キャラクターの追加



簡単な操作で目的地までのルートが表示されます

大学発ベンチャー第3号の株式会社NEXS(ネクシス)。アプリの名前は「カッチーナビ(Navi)」に決まりました。

広報室には学内で取材する報道関係者からの取材場所の問い合わせが多くあります。このような背景から、学内の目的の場所までスマートに誘導するアプリを企画しました。制作を依頼したのは、佐賀

ナビゲーションアプリ

度入学した新入生にも周知したところ、なんとその約半数が利用したことことがわかりました!簡単操作でスマホ容量を圧迫しないWebアプリ、そしてなにより無料で使用できることが、新入生に支持された大きな理由だと考えられます。皆さんぜひ佐賀大学を訪れた際は、このアプリをご活用ください。



30名



コンパクトにたためる
エコバッグ!

カッチーくんイラスト
ステッカー4種セット

合計50名様に当たる! 読者プレゼント

読者アンケートにお答え頂いた方の中から抽選で合計50名の方に、佐賀大学オリジナルグッズをプレゼントいたします!今回のグッズは、なんと学生広報スタッフがデザイン! Webアンケートに回答して

ご応募ください。応募期間は12月末日迄。

当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。たくさんの応募をお待ちしています!



Webアンケート

佐賀大学基金ご寄附者芳名帳

(令和6年1月～令和6年6月現在)

佐賀大学基金へのご協力に、心より御礼申し上げます。
ご寄附いただきました方々への感謝の意を込めまして、ここにご芳名を掲載させていただきます。

【佐賀大学基金(一般基金)】

古賀 常次郎様	末永 哲人様	三井 俊郎様	他4件
---------	--------	--------	-----

【美術館募金】

今田 真人様	1件
--------	----

【院内保育所事業基金】

池田 昌彦様	加藤 富民雄様	庄野道行様	竹下 勉様	本司 貫様	他2件
--------	---------	-------	-------	-------	-----

【修学支援基金】

大久保 秀裕様	柏田 知美様	嘉村朋顕様	岸川 馨一郎様	木村直也様	柴田泰祐様
鈴木光志様	竹下修平様	竹下百合香様	松藤祥平様	安武結衣様	雪本薰平様
他4件					

【課外(漕艇部)活動支援基金】

本多晃一様

【課外(熱気球部)活動支援基金】

上田誠様	副島英伸様	室英理子様	他2件
------	-------	-------	-----

【課外(準硬式野球部)活動支援基金】

加治亮平様	神田佳洋様	古賀佑一様	古賀陵太様	高橋光様	仲村将幸様
本村友一様	諸隈宏之様	柚木純二様	他4件		
他4件					

お問い合わせ先

佐賀大学基金事務局

(佐賀大学総務部総務課内)

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地

TEL 0952-28-8390 FAX 0952-28-8118

E-mail kikin@mail.admin.saga-u.ac.jp

URL https://www.kikin.saga-u.ac.jp

■五十音順にて掲載しております。

■お名前の公表をご希望されていない方につきましては、人数のみ掲載しております。万が一お名前が漏れている等の不備やお気付きの点等がございましたら、誠に恐縮ではございますが、佐賀大学基金事務局までご連絡ください。

いただいたご寄附により、奨学生の給付、課外活動の備品購入等に使用させていただきました。今後とも更なるご支援のほどよろしくお願いいたします。

また、多数の卒業生からもご寄附をいただいておりますが、卒業生への広報活動には佐賀大学同窓会のご協力をいただいている。この場を借りて御礼申し上げます。



佐賀大学校友会は、在学生の海外留学、国際活動や課外活動、ボランティア活動などで頑張っている学生への支援を行っています。

佐賀大学校友会では会員になっていただける方を募集しています。

校友会事業の詳細については、佐賀大学校友会HPに掲載しております。

佐賀大学校友会の活動についてご賛同いただきご入会いただきますようお願いします。

詳細はこちらでご確認下さい。

佐賀大学校友会HP <https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp>

問い合わせ先

佐賀大学校友会事務局

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地

(佐賀大学総務部総務課内)

電話 0952-28-8390 FAX 0952-28-8118

E-mail : kouyukai@mail.admin.saga-u.ac.jp

●会員制のため、ご芳名は公表しておりません。

志上ギャラリー

有田キャンパスストリートギャラリー



1 かえるばしょ 伊藤 亜優



3 たくさん集まって、うるさく無い訳がない 津留崎 華



4 軌跡～22歳の私～ 吉武 操里



5 美少女戦士私 岩崎 佑香



6 音楽の器 竹内 柚葉



15 若山牧水歌集小皿 末澤 紫乃



16 球 荒木 晃



20 Lin -凛- 山田 愛華



22 織紡 古賀 聖織



23 カット・フィット・ディッシュ 津田 直希



25 一衣慈水 藤岡 瑠璃



本学の情報をスマートフォンで見ることができます。簡単アクセスはQRコードをご利用下さい。
スマートフォン用 URL:<https://www.saga-u.ac.jp/sp/>

